

1. 略歴

1985年3月	静岡県静岡聖光学院高等学校卒業
1985年4月	東京大学教養学部文科三類入学
1989年3月	同 文学部英語英米文学科専修課程卒業
1989年4月	東京大学大学院人文科学研究科（英語英米文学専攻）入学
1992年3月	同 修士課程修了・修士（文学）
1993年10月	連合王国ケンブリッジ大学大学院博士課程入学（英米文学専攻）
1997年5月	同博士課程修了 博士号取得（文学） タイトル：‘Wallace Stevens and the Aesthetic of Boredom’
1992年4月	東京大学文学部英語英米文学科助手
1993年4月	帝京大学文学部助手
1997年4月	帝京大学文学部専任講師
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

英米文学

b 研究課題

英語圏の詩や小説の研究を中心とする。個々の作品の緻密な解釈と、作品を作品たらしめる力学の解明に向けた努力を研究の中心としつつ、同時に、「なぜ詩でなければならぬか?」「なぜ小説なのか?」という素朴な疑問との取り組みをも課題とする。詩や小説を自足的なジャンルとみなすのではなく、「詩的であること」「小説的であること」を絵画・舞台芸術、スポーツ、インターネット空間などとの関係でとらえることもテーマとする。

c 概要と自己評価

概要

2014年度から2015年度にかけては、ポライトネスに研究の焦点を移し、詩や小説の語り手が読者とどのような人間関係を築こうとしているかという疑問を足がかりに、語りの作法構築の問題を考察した。その成果として『善意と悪意の英文学史』がある。また『幼さという戦略』は日本文学を主にとりあげたものだが、英文学研究で得た知見も大いに生かされており、詩や小説の語り手の本来的な「弱さ」や「幼さ」を考察している。

自己評価

ポライトネスへの注目を出発点にした文学研究はまだ一般的にも広がりを見せているとは言えないので、今後は協同研究のような形でネットワークを広げつつ、より広範にわかる対象をとりあげながら理論の洗練をめざしたい。また「凝視」の研究の延長線上として、「共視」や「錯視」「注意散漫」といった類似テーマの研究も引き続き行う予定である。

d 主要業績

(1) 著書

単著、阿部公彦、『英語的思考を読む』、研究社、2014.5

(2) 論文

阿部公彦、「発語の境界線—詩の恥ずかしさをめぐって」、『ビーグル』、23号、14-18頁、2014.5

阿部公彦、「『如是我聞』の妙な二人称をめぐって」、『太宰治研究』、22号、255-268頁、2014.6

阿部公彦、「蓮實重彦を十分に欲するということ」、『群像』、2014年8月号、150-161頁、2014.7

(3) 書評

柄折久美子、『森有正先生のこと』、筑摩書房、『春風新聞』、14号、2頁、2014.5

辻原登、『東大で文学を学ぶ』、朝日新聞出版、『一冊の本』、2014年6月号、10-11頁、2014.6

平野啓一郎、『透明な迷宮』、新潮社、『すばる』、2014年9月号、2014.9

島田雅彦、『往生際の悪い奴』、日本経済新聞社、『週刊文春』、2014年9月25日号、119頁、2014.9

鳥飼久美子、『英語教育大論争から考える』、みすず書房、『共同通信』、2014年9月11日配信、2014.9

辻原登、『東大で文学を学ぶ』、朝日新聞出版、『群像』、2014年11月号、328-9頁、2014.11

小野正嗣、『九年前の祈り』、講談社、『週刊読書人』、2015年1月23日号、5頁、2015.1

朝比奈あすか、『あの子が欲しい』、講談社、『群像』、2015年2月号、296-97頁、2015.2
竹内康浩、『ハックルベリー・フィンの冒険』、新潮社、『波』、2015年2月号、36頁、2015.2
小野正嗣、『九年前の祈り』、講談社、『文學界』、2015年3月号、298-99頁、2015.3
西村賢太、『無銭横町』、文藝春秋社、『週刊現代』、2015年4月18日号、126頁、2015.4

(4) 解説

阿部公彦、「田原解説」、『現代誌文庫 田原詩集』、2014.4
阿部公彦、「解説 作家の呼吸法」、佐伯一麦『日和山 佐伯一麦自選短編集』（講談社文芸文庫）、223-234頁、2014.6

(5) 学会発表

国内、阿部公彦、「カウンセリングの文学—村上春樹から英文学まで」、名古屋大学英文学会サマー・セミナー、名古屋大学、2014.7.11
国内、阿部公彦、「詩人川崎洋 没後十年 かがやく（ことば）の息づかい」、西南学院創立100周年記念学術シンポジウム、サピアタワー五階 サピアホール、2014.11.6
国内、阿部公彦、「英文学の諸事情」、日本フランス語フランス文学会関東支部シンポジウム「いま外国文学を教えるということ」、昭和女子大学、2015.3.7

(6) 啓蒙

阿部公彦、「失語不能症と数の魔術—W・B・イエイツ」、『春風新聞』、2014年秋冬 15号、8頁、2014.11

(7) 監修

阿部公彦、『ひと皿の小説案内—主人公たちが食べた50の食事』、マール社、2015.2

(8) 会議主催(チェア他)

国内、「日本英文学会北海道支部シンポジウム」、その他、「文学史を書くこと、文学史を教えること」、札幌・武蔵女子短期大学、2014.10.25

(9) 総説・総合報告

阿部公彦、「概観 2013年 海外文学 イギリス文学」、『文芸年鑑 2014年度版』、2014年度版、58-60頁、2014.6

(10) マスコミ

「新人小説月評」(2月分)、『文學界』(4月号)、2014.3
「新人小説月評」(3月分)、『文學界』(5月号)、2014.4
「新人小説月評」(4月分)、『文學界』(6月号)、2014.5
「新人小説月評」(5月分)、『文學界』(7月号)、2014.6
「新人小説月評」(6月分)、『文學界』(8月号)、2014.7
「新人小説月評」(7月分)、『文學界』(9月号)、2014.8
「新人小説月評」(8月分)、『文學界』(10月号)、2014.9
「新人小説月評」(9月分)、『文學界』(11月号)、2014.10
「新人小説月評」(10月分)、『文學界』(12月号)、2014.11
「新人小説月評」(11月分)、『文學界』(1月号)、2014.12
「2014年読書アンケート」、『みすず』、2015.1
「詩とことば 一月」、『読売新聞』、2015.1.21
「詩とことば 二月」、『読売新聞』、2015.2.17
「詩とことば 三月」、『読売新聞』、2015.3.17
「2014年上半期の収穫から」、『週刊読書人』、2015.7.25

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本アメリカ文学会、編集委員、2014.4～